

新人職員紹介

資源研究部

かねまる
金丸 陸



【現在の業務内容】

令和 8 年度（2026 年度）新規採用職員として資源研究部に配属された金丸陸です。

私は主に、アユやクルマエビなどの水産資源に関する調査業務を担当しています。

河川でのアユの遡上状況調査や耳石を用いた成長の解析、クルマエビの放流技術開発試験のほか、沖合海洋観測や市場調査など幅広い業務に携わっています。

漁協や漁業者の皆さんとの調査に係る日程調整や業務内容の打合せ、現地調査でのデータ収集から整理、解析までの一連の業務に携わることで、熊本県の水産業に関わる方々の想いや

水産資源の管理や評価の重要性を実感しているところです。

まだ分からないことも多く、日々先輩方に指導いただきながら、水産資源に関する知識や調査技術の習得に励んでいます。

【今後の目標】

調査や研究を通じて得られた成果を、水産業の振興や資源の持続的な利用に役立てられる職員になることが目標です。そのために、現場での経験を積みながら専門知識や調査技術を身に付け、正確で信憑性の高いデータを提供できるよう努めていきたいと考えています。

また、漁業者や関係機関の皆様とのつながりを大切にして、熊本県の豊かな海を目指し、水産資源の維持・発展に貢献できるよう頑張ります。

新人職員紹介

浅海干潟研究部 たけすえ なお き
武末 直輝

【現在の業務内容】

令和8年(2026年)4月に入庁し、浅海干潟研究部に配属になりました、武末直輝です。

私は、ノリの研究を担当し、高水温耐性や高生長の特性を持つ品種の選抜育種に加え、室内・現場試験を通じた品種としての評価、漁業者の方への海況などの情報提供や養殖技術指導などの業務を行っています。現在は、11月の漁期に合わせた試験に向け、ノリの糸状体を播種したカキガラの培養、管理を実施しています。

近年、ノリ養殖をとりまく環境は、海水温上昇に伴う海洋環境の変化や社会情勢の変化が著しい状況です。このため、関係各所と協議を重ねながら、こうした変化への適応に主眼を置いた生産体制の確立に向けた取組みを進めています。

私自身、ノリの生物学的な特徴についてまだまだ学ぶべきことも多いため、先行研究の精読や漁業者とのやりとりを通して日々勉強に励んでいます。

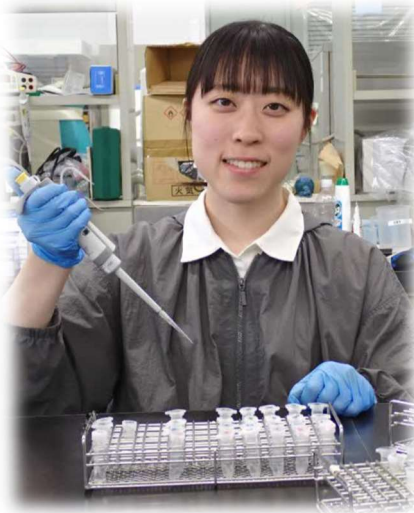
【今後の目標】

漁業者の方が熊本の海で安心して漁業を続けられるとともに、消費者がその産物を安定的に享受できるよう努めたいです。特にノリ養殖は県の重要な基幹産業でもあります。現在はまだ未熟な身ではありますが、積極的に現場に赴いて多くの経験を積み、先輩職員からの指導を仰ぎながら、漁業者との密接なコミュニケーションを通して、知識と技術を吸収していきたいです。培ったことは全て本県のために還元し、持続的な水産業の発展に向けて精一杯励んでいきますので、これからよろしくお願いいたします。



新人職員紹介

食品科学研究部 やまひら あかり
山平 茜莉



【現在の業務内容】

令和8年度(2026年度)新規採用職員として食品科学研究部に配属された山平茜莉です。

主に定期麻痺性貝毒モニタリング調査、ヒトエグサの人工採苗に関する試験研究、イサキの高付加価値化のための旬調査を担当しています。

まず麻痺性貝毒モニタリング調査では、二枚貝に蓄積される麻痺性貝毒について、月に1～2回、調査定点のアサリやカキを対象にエライザ法によるスクリーニング検査を行っています。細心の注意を要する検査であり、正確な結

果を得るために、常に緊張感をもって取り組んでいます。

また、ヒトエグサの人工採苗試験では、県内の漁場から集めた母藻を元に配偶子を採取し、コストを抑えつつ品質の安定した網の作成に取り組んでいます。

さらに、イサキの旬調査では、ブランド化や魚価の向上といった高付加価値化に繋げるため、熊本県産イサキの脂の乗りや産卵期を明らかにすることを目的に、粗脂肪率や生殖腺重量などの測定を行っています。

業務内容が幅広く、漁業関係機関や漁業者の方々と密に関わる機会も多いため、日々多くのことを学ばせていただいております。

【今後の目標】

今後は、先輩方のように幅広い知識と経験を身につけ、多角的な視点から熊本県の水産業を支えることのできる職員を目指したいと考えています。近年は海洋環境の変化などにより、これまで当たり前に獲れていた水産物が獲れなくなるなど、水産業を取り巻く状況も大きく変化しています。そのような課題に対応できるよう、日々の業務を通じて技術と経験の習得に励み、熊本県の水産業の振興に貢献できるよう努めてまいります。

新人職員紹介

技術室 う え だ た い せ い
上田 大世

【現在の業務内容】

令和8年度（2026年度）新規採用職員として技術室に配属になりました上田大世です。私は、資源研究部が行う試験や調査のサポートを担当しています。主な業務として、クルマエビやガザミの放流、放流効果の推定に必要なサンプルの採集、体長や体重等の測定、データの整理や管理をしています。

また、魚の卵や稚仔魚の動向を調査するための試験調査船「ひのくに」への乗船や、卸売市場でのマダイやヒラメなど資源評価対象の魚のサイズの測定、特にイワシ類やイサキは魚を持ち帰って、内臓まで測定する精密調査も行っています。

最初は分からないことばかりで不安もありましたが、諸先輩方が優しく教えてくださるので、不安もなく業務に取り組むことができます。

【今後の目標】

熊本県の水産業の魅力を知るとともに、課題を学んでいきたいと思っています。日々の業務を通じて知識や技術力の向上に努め、より幅広い業務に対応できるようにしたいと思います。



ご意見・ご感想をお寄せください

熊本県水産研究センター 企画情報室

☎ 0964-56-5111（代表）

0964-56-5112（企画情報室）

✉ suisankense@pref.kumamoto.lg.jp